



感染管理認定看護師が取り組んだ「汚物処理改革のススメ」

社会福祉法人 恩賜財団 京都済生会病院

京都府長岡京市
288床／職員数 656 名（うち看護職員数346名）



課題・背景

①汚物処理室での使用済み機材の取り扱いに感染リスクがある

- 洗浄時間が長く、尿便器をその都度ベッドバンウォッシャー※1（以下BPW）で洗浄できない
- 汚染がひどい場合、洗浄後の容器に洗い残しがある
- BPW内に洗浄後の清潔な容器が残っている場合、汚染容器との入れ替えの工程で汚染するリスクがある など

②汚物処理室内での作業に手間と時間がかかっている

- 主に看護補助者がBPWへ容器のセッティング、洗浄後の乾燥機への移動、乾燥後の棚への収納を行っている

※1ベッドバンウォッシャー（BPW）：尿や便が入ったままの汚物容器を洗浄する装置

目的・目標

感染リスクが低く、作業時間が短い汚物処理を実現する

- ① 看護補助者の1日あたりの汚物処理に関連する作業時間を現状の半分以下にする
- ② 汚物処理室で洗浄を要している器材を可能な限り廃棄する

▶ BPWを廃止し、マセレーター※2を導入する

※2マセレーター：再生紙で作られた単回使用の尿便器等を汚物ごと粉碎、排水処理を行う装置

取り組み内容

2019年10月～
2021年7月 **マセレーターの導入まで**

シミュレーションの実施

前提条件：1病棟の患者10人（男5女5）が1日6個の容器を使用し、
毎回洗浄（廃棄）

① 作業時間

- ・BPW：6分/回×（ポータブル35回、尿器（5本ずつ）5回）
= 240分/日
（+陰部洗浄用ボトル、回収容器などの洗浄・乾燥）
- ・マセレーター：1個ずつ廃棄し稼働した場合 30分/日

	回収	BPWに設置	洗浄	乾燥機へ	乾燥	収納	
BPW		3分	(10分)	2分	(15分)	1分	6分
マセレーター	回収	廃棄	破碎				0.5分
		0.5分	(2分)				

▶ 1病棟1日あたり **210分** の業務時間の短縮

② 1年間の人件費を含むコスト

- ・BPW 23,115,798円
- ・マセレーター **22,412,178円**

2021年8月～
2022年5月 **マセレーター導入決定から新病院移転まで**

① 汚物処理室で洗浄を要する物品の変更

- ディスポタイプに変更
吸引ビン、畜尿容器
- ケア方法の変更
陰部洗浄から陰部清拭ワイプを導入し陰部洗浄物品を廃止

② デモンストレーション（1か月間）

③ パルプ容器の選定

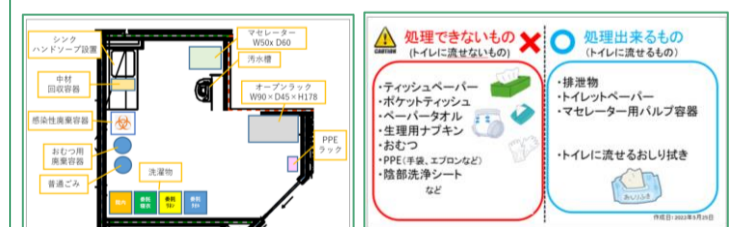
④ 汚物処理室のレイアウトの決定

⑤ 看護職員、看護補助者にマセレーター本体を用いたレクチャーを7回実施

⑥ 不要な蓄尿、尿量のカウントなどについて医師と協議



①物品の変更
(ケア方法の変更)



④汚物処理室のレイアウトの決定

⑤レクチャーにて説明

成果・効果

① 感染リスクの減少

○耐性菌や *Clostridioides difficile*(CD) の新規発生が減少

MRSAの発生密度
(1,000延べ入院患者) **0.86** ▶ **0.45**

ESBL産生菌の発生密度
(1,000延べ入院患者) **0.64** ▶ **0.44**

CD（抗原陽性）の検出数 **85件** ▶ **31件**

② ディスポ化による看護補助者の作業時間の短縮

○洗浄が必要な容器の洗浄作業、乾燥作業 **0分**

○看護補助者の声

- ・時短を図れていると実感している
- ・尿器や便器などが不足して探し回る負担の減少

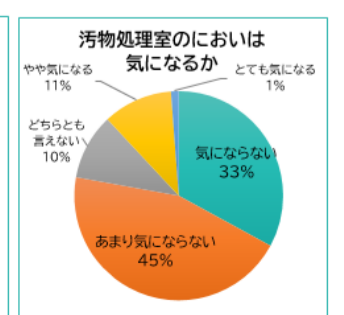
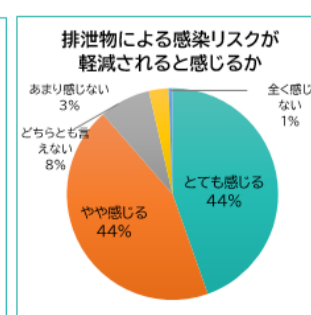
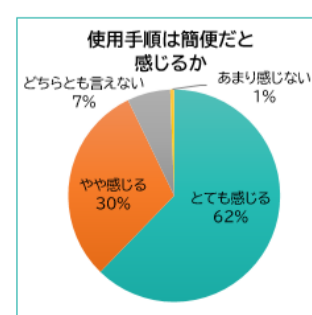
③ コストの削減

○1年間のランニングコスト（本体台、パルプ容器、光熱水費）
BPW 11,692,435円 ▶ **マセレーター 9,680,630円**

【算出方法】

- ・BPWの運転回数はパルプ容器の使用量を基に算出
- ・物品は使用ごとに洗浄または廃棄すると想定
- ・尿器は5つで1回、回収容器は3つで1回洗浄すると想定（BPW）
- ・本体台は10年間使用すると仮定し、総額を10で分割

④ 職員の満足度が高い



看護職員・看護補助者アンケート（n=167）より（2022年9月実施）